



東京全労協

2014年8月8日 66
東京都港区新橋6-7-1
川口ビル6F
TEL. 03 - 5403 - 1650
FAX. 03 - 5403 - 1653
発行人 纈纈 朗
定 価 1部 10 円

7・19米軍横田基地 オスプレイ飛来に緊急抗議行動！

オスプレイ配備中止等を求める要請

7月19日午前、東京全労協は米軍基地に反対する実行委員会と沖繩にも横田にもオスプレイはいらない実行委員会に結集する市民と共に、米軍横田基地に初めて飛来するオスプレイに抗議する緊急行動を行った。当日は120名を超える労組・組合員、市民が結集し、首都東京に沖繩・普天間基地から飛来したオスプレイに強く抗議した。

実行委員会を代表して東京全労協久保事務局長は、基地ゲートを封鎖する在日米軍第5空軍司令官に対し抗議と要請を行い、また、横田基地ゲート前において横田基地を共同使用する自衛隊に対し、17機のオスプレイ配備中止等を求める要請を行った。

横田基地に飛来したオスプレイ2機は、20日に札幌市で開催する自衛隊の航空イベントに向かう途中、給油のため横田基地に19日9時過ぎに飛来した。東京全労協は、沖繩の民意を踏みにじり新基地建設を強行する安倍政権を許さず、米軍基地に反対し沖繩に連帯する闘いを、首都東京で奮闘する決意だ。



横田基地の自衛隊に要請する久保事務局長

被爆69周年原水爆禁止世界大会 福島大会参加報告

去る7月27日、福島大会が「核も戦争もない平和な21世紀に！くり返すな原発震災！めざそう！脱原発社会」をメインスローガンに、広島・長崎に先駆け、地元福島、東北各県、全国各地から会場あふれる1300名の参加により（東京全労協からは2名の代表派遣）福島県教育会館ホールにて開催された。

開会にあたり、3・11震災の犠牲者、被爆69周年を迎えこの間亡くなられた方々へ黙とうを行い、川野実行委員長、地元福島県立和フオーラムから挨拶ののち藤本事務局長より、安倍政権が進める憲法の解釈改憲をはじめ、平和主義のもと70年にわたり築きあげてきた国際的信頼関係を打ち壊そうとしている。今「平和か、戦争か」が問われている。暴走する安倍政権の戦争への道を許してはならない。福島原発事故は核兵器だけではなく、原発も「人類とは共存できない」ことを改めて私たちに突き付けた。核絶対否定の理念を訴え、平和と安全そして新しい生き方と社会を求めていこう。「フクシマを核時代の終わりの始まり」にしよう」と

東京全労協ブロック 交流合宿に参加しよう！

～ 鉾毒事件の現場、足尾銅山を学ぶ～

足尾銅山は、「明治・大正・昭和」と日本一の銅生産を記録して日本資本主義の発達を支えた原動力とされていますが、その結果、鉾毒で足尾山地は破壊され、下流の渡良瀬川一帯も鉾毒被害が発生し、日本の公害の原点とされています。

この足尾鉾毒事件に対する「田中正造」の闘いと、中国人の強制連行も行われていた足尾銅山の歴史と現状を現地のガイドさんから学べます。

今回は、足尾銅山を中心に現地を学習する内容になっており、最後には、当時の鉾石・精錬用の硫酸を輸送していた鉄道路線を走る「渡良瀬渓谷鉄道トロッコ列車」にも乗車します。

職場・地域間の交流を深めるため積極的な参加をお願いします。

2014年9月6日（土）～7日（日）

- 6日 池袋出発 田中正造記念館（館林） 足尾歴史館 本山精錬所 松木地域 国民宿舎かじか荘（交流会）
 - 7日 中国人慰霊碑 小滝抗 足尾鉾山観光見学（坑道内学習） 渡良瀬渓谷鉄道トロッコ列車（大間々駅まで） 池袋着
- 参加費 2,000円（詳細は東京全労協事務局までお願いします）



13万人に及ぶ

大会基調が提起された。続いて、福島現地報告が、「3・11後の教育現場から」澤井さん（県教組）、「福島『福幸』のために」渡邊さん（かーちゃん）、「さらに健康生協活動報告と問題提起」福地さん（きらり健康生協）の3名から行われた。最後に、福島原発事故は「人災」そのものであり経済効率優先、安全対策を蔑視して来た結果だ。福島でも13万人に及ぶ

人々が避難生活を余儀なくされている。そして「震災関連死」は1700人を超え直接死を上回った。また事故原発では多くの労働者が被爆労働を強いられている。事故の現実を無視した「福島復興」やフクシマ支援を抜きにした脱原発はあり得ない。「第二、第三のフクシマ」を許さず、フクシマを核時代の終わりにしよう。との大会アピールを採択した。

参加者は、教育会館から市内の繁華街や駅前を通り県庁までの約3kmコースで行進を行い、沿道の市民に脱原発、核廃絶を訴えた。北部労働組合協議会 小泉尚之

入労一時金学歴差別支給・ 第2次裁判高裁判決

原審判決を概ね踏襲、一部原告には損害賠償を減額学歴による「一時金支給月率格差請求」は第1次訴訟の確定判決、第2次原審判決と同様却下の「不当判決」

第2次控訴審は7月23日（水）午後1時10分から開廷され、東京高裁・下田裁判長は、原審判決・「予備的請求（不誠実団交に対しての慰謝料）を認め、損害賠償金額の支払いを命令」

に対し、一部原告の損害請求権を、「時効により消滅した」として減額する判決文を読み上げました。

また、半世紀近くに渡って学歴に関係なく支給されてきた同一月率支給の「労使慣行」は認めず、学歴による不利益扱い（＝賃金格差請求）は、第1次訴訟の確定判決、第2次原審判決と同様、「却下」という不当な判決です。



Rサーベイを根拠にしているとして、その上で、TRサーベイは十分な精度を有しておらず、よって原告・組合は提案内容を検討、検証ができた「と認定し、誠実交渉義務違反（＝損害賠償の支払い）としてこれまでの判決をそのまま踏襲しています。

新たな展開 厚労省交渉行方

NTT木下職業病闘争支援共闘会議

電電公社（現NTT）に交換手として働いていた木下孝子さんが職業病（頸肩腕障害）を発症、治療中に不当解雇をうけ、6月19日で33年が経過しています。

7月22日には、参議院議員会館において厚労省交渉が行われました。厚労省側3名に対し、私たちは福島みずほ参議院議員と秘書をはじめとし、全労協・中岡事務局長、共闘会議、東京労組を中心に14名のメンバーで交渉に臨みました。

はない」については、明確にこれを退けています。

この「団体交渉権の権利が組合員個人にも通ずる」との裁判所の判断について弁護士は、今後の労使紛争における裁判に大変有効であると評価していました。

1次・2次訴訟の裁判闘争を通じて、「一時金支給の労使慣行」・「学歴に係りの無く遂行される現在の業務実態」について、「裁判官は、さながら思考停止の状態である」というのが率直な感想です。

新たな展開 厚労省交渉行方

いた1080団体の署名を提出し、厚労省側から事前に提出していた6項目の要請（電電公社の企業内認定の矛盾、当時の国会での議論をどう捉えていたか、頸肩腕障害の多発の原因、業務上・外の認定結果、プロジェクト答申について、当時の業務上の認定基準から外れた人の救済）の回答を受けました。

厚労省側は、認定制度について法律に基づき金銭的余裕がある企業に補償を求めたものと回答。私たちは、補償はわかるが認定のあり方について、加害者が被害

「フジビ闘争」2年 9・18決起集会・地域デモに結集しよう！

9月18日（木）18：30～、北区田端台公園

フジビ闘争は、9月14日で偽装倒産・全員解雇から2年となります。当該東京労組フジビグループ分会は1月結成の支援共闘会議の仲間とともに、各方面への要請やフジビ社前座り込み・構内抗議集会などの実力行動により、争議解決をめざしフジビを追い詰めています。

9月18日の2周年決起集会は、初めてフジビ会長自宅オクシオン前の田端台公園で集会を行いフジビに向け抗議の地域デモを行います。多くの労組・組合員の仲間の支援を訴えます。



者を認定するという制度は何に基づくものかと追及。省側は法律に基づきを繰り返すばかり。他の項目に関しても通り一遍の回答で、当時の劣悪な職場の状況、長年の苦しみに理解を示すものではありませんでした。

私たちは、国策上のゆがみが問題の発端、なぜ見逃してきたのか、指導してきたというのであれば、国の指導責任ではないかと省側を追及。

交渉団の気迫に満ちた追及に厚労省側もたじろじ。あらためて総務省を交えた交渉を持ち直すことを確認して、90分間の交渉を終了しました。

この交渉を新たなスタートし、争議の解決を目指します。今後とも重ねてのご支援をよろしく願います。
東京労組・木下孝子

西部全労協 ブロック報告

西部全労協は、昨年12月4日に第24回定期大会を開催し、一年間の活動方針を決め、諸行動に取り組んできました。

月一度の西部地域定例のJR新宿駅南口での駅頭宣伝行動をはじめ、JAL闘争の都内6箇所駅頭宣伝行動並びに新宿柏木公園で定例となった新宿地区労センタ―主催の月一回の反原発集会・デモを取り組んできました。

また、2月26日には「原発のない社会の実現と、JALの不当解雇を許さない東京西部連絡会（通称・G

「西部連絡会」主催により、「JAL闘争と労働法制について」と題して宮里弁護士を講師に招き学習会を開催してきました。

今、私たちを取り巻く状況はこれまでにない厳しさだと言わざるを得ません。

集団的自衛権行使、憲法改悪、過労死促進、残業代ゼロの労働法改悪、派遣法改悪、辺野古米軍基地建設、オスプレイ配備、川内原発再稼働、福島原発の汚染水・汚染ゴミ処理・放射能飛散など私たち労働組合が取り組まなければならない課題は山のようにあります。

西部全労協はまだまだ微力ですが、全国の仲間と共に精一杯頑張りたいと思います。

フクシマを忘れない！ 再稼働を許さない！ 「9・23さようなら原発全国大集会」に結集し、 安倍政権の原発再稼働を止めよう！

5月25日に福井地裁は「大飯原発の安全技術と設備は脆弱なものと認めざるを得ない」とし、関西電力に大飯原発の運転差し止めの判決を出した。しかし、原子力規制委員会は優先的に鹿児島県川内原発の適合審査を進めて、6月には「新規制基準」に適合するという報告書を発表した。これは、原発の周辺住民の安全を度外視した無責任な審査報告であり、現地では川内原発早期再稼働を阻止すべく、9月28日に川内現地において一万人集会を予定している。

全労協脱原発プロジェクトは、6月17日全水道会館で全労協脱原発総決起集会を100名の参加で開催した。この学習決起集会を全労協の脱原発運動の再構築に向けたスタートと位置付け、労働組合として脱原発運動の先頭に立つ決意を新たにした。

脱原発プロジェクトは、9月6日14時から新宿駅西口で街頭宣伝・署名活動を行う。

9月23日秋分の日に代々木公園で開催する「さようなら原発全国大集会」への結集を呼び掛ける。（11時～オープニングライブ、13時～トークライブ終了後にデモを行う）